

入場者数が激減した科学館を再建

NPO法人科学とものづくり教育研究会「かもけん」(室蘭市)

ドライアイスが入った容器の上で、シャボン玉を作ると……白い煙が立ち上る容器に向けて、子供たちがストローで息を吐く。霧のような煙の中にシャボン玉が浮き、光を反射しながら回転し始めると、ワーという歓声が上がった。

「さて、どうして、こうなるのかと言えば」元中学校教諭である三上英勝さんが、ドライアイスが気化して二酸化炭素になることを、子供たちに語りかけるように説明する――。

室蘭市青少年科学館を運営するNPO法人科学とものづくり教育研究会(通称・かもけん『科学・もの・研究』)が毎年主催する「夏休み・科学館祭」のプログラム、「実験教室・ドライアイスで科学する」の一コマである。

この実験教室に参加していた中学2年生の女生徒2人に、参加理由を尋ねると、「この実験を、夏休みの自由研究に使うためです」。2人は隣町の伊達市から来ているという。

幼稚園児と小学校3年生の男子児童を連れてきている女性は、長崎県に住んでいるが、いま実家に帰省しているので来たという。

「私も小さいときにここに来ていましたから、子供たちにも見せてやりたいと思って」と懐かしそうに語っていた。



「夏休み・科学館祭」でのドライアイス実験

■ 「鉄の町」室蘭の斜陽化

室蘭市青少年科学館は、1963年(昭和38年)に青少年に対する科学知識の普及、啓蒙を図るための主要施設として開設した。各種科学や理工関係の展示品やプラネタリウムが設置されているほか、温室まで保有する科学館として注目された。こうした施設は北海道内では初めてでもあった。

しかし、「鉄の町」室蘭市の斜陽化と共に、同科学館もまた活気を失っていった。施設の

老朽化などもあり、最盛期には 12 万人だった年間入場者が 3 万人ほどに落ち込んでいた。こうした状況のとき 2003 年から自治法が改正され指定管理者に自治体の業務を委託できるようになったことで、室蘭市は積極的に同制度を導入、同科学館の管理を民間業者に委ねる方針を打ち出した。

当時、同館で主催している「科学クラブ」の講師をやっていた小川征一さん（現館長）は、「一般の民間業者に科学館の運営を任せられない」と、退職した仲間を集めて任意団体を作り、指定管理制度に応募した。

小川さんたちの団体は、経験豊富で子供たちのことをよく知っているとの理由で、市からの指定を受け、任意団体を NPO 法人「かもけん」とし、2005 年から指定管理者として運営を開始した。「かもけん」は、子供から大人まで幅広い世代が楽しめる科学館を目指し、100 円ショップなどで揃えた手作りの実験道具で、様々な実験コーナーを設けた。また科学館祭や昆虫展、天体観測会などの定期的なイベントのほか、出前科学館なども実施。



「スタッフを束ねることが一番大変」と小川館長

さらには、それまでの「科学クラブ」、「ロボットクラブ」などにも力を入れ講師陣を充実させた。こうした活動で、年間 5 万人以上（2006 年度）の入場者数を誇るようになり、リピーターの数も増え始めた。

2007 年には、同館の運営支援を目的とした株式会社「KMクリエイト」を設立、NPO 法人の立場では事業化しづらかった業務を担い、収益を教材費などに活用する。財源確保に向けた独自の策で、収益を上げる動きは「まさに民間の発想」と室蘭市教育委員会でも注目している。

そして、2010 年 4 月から、5 年間の契約で指定管理制度の第 2 期目がスタートしている。

■ 5 人分の人件費で、総勢 27 人

同科学館の運営で、一番苦労している点について、小川館長に尋ねると、「スタッフを束ねること」という回答が即座に返ってきた。市から委託されている事業費では、せいぜい 5 人分の人件費がやっと。その予算で総勢 27 人を抱えている。このうち 20 代・30 代の職員は 4 人。

「若い人たちの給与は、私の 2 倍ぐらいじゃないですか」と小川館長は大らかに笑うと、「モノでは見せられないから、人で見せています」と胸を張った。「科学の面白さやものづくりの楽しさを伝える指導員が、来館者をいつでも出迎えられる環境こそが大切なんですよ」と、力説する。

指導員は元教諭といった人が多い。平均して週に2～3回来てもらっているという。薄給でも、たくさんの指導員が手伝っている理由について、「例えば、町で子供に声をかけると、今の社会では不審に思われてしまいます。でもここでは大丈夫。私を含めて、みんな子供から元気をもらっているようなものですからね」。

小川館長が自負する通り、2010年8月に行われた「夏休み・科学館祭」（8月7日～9日）でも、指導員が各所に配置され、参加者にきめ細やかな説明をしていた。



「かもけん」が運営する室蘭市青少年科学館

「実験教室・ドライアイスを科学する」の講師を担当していた三上さんは、元中学校教諭で理科を教えていたという。「小学校ぐらいの子供が多いので、言葉を噛み砕いて使わなければならないですね。『体積』と言っても分からないこともありますから。それになによりも準備が大変ですね」と、汗を拭きながら語る。

「3D実写体験シミュレーター」のそばで注意事項を説明するひとときわ若い指導員

は、室蘭工業大学のロボット研究会「夢工房」に所属する東知志さん（室工大1年）。イベント時など人手が必要なとき、同研究会が頼まれるという。「今回僕は、ここに手伝いとして初めて来ましたが、子供たちが笑ってくれるのを見ると、こっちも嬉しくなりました」と話していた。

そのシミュレーターを体験するのに順番待ちで並んでいた女子生徒は、「近くの図書館に来ていたのですが、気分転換に寄ってみました。なんか楽しいですね」（向陽中学校3年生）と明るく答えてくれた。

■ 連絡先

〒051-0015 室蘭市本町2丁目2番地1号

室蘭市青少年科学館 代表 小川 征一

TEL0143-22-1058/FAX 0143-22-1059

Email : ogawa@kujiran.net

URL : <http://www.kujiran.net/kagaku/>